



トマソン隊じゃないから



鶴見七福神編 by うさお

招待状

ピアノ演奏会
「音の個展」

日時：2012年 10月4日(木)
開場 13時30分
開演 14時

場所：カワイ表参道 2F
コンサートサロン「パウゼ」
渋谷区神宮前5-1
☎03-3409-2598

内容：Part-1 Jazz風なアレンジより
Part-2 オリジナル「風」より
Part-3 Classic風なアレンジより



地下鉄「表参道」駅のA1出口を出て原宿方面に向かいます
(B5出口だとエスカレーターで地上に出られます)
歩いてわりとすぐの左側にあるカワイピアノのショールーム
「KAWAI OMOTESANDO」(下の写真)に入ります
エレベーターで2Fが会場のコンサートサロン「パウゼ」です



おじさん会のメンバー(トミーさん、タツオトさん、矢澤さんらがメンバー)の中に、T川氏と言う方がおられ、その方のピアノリサイタルにお招きを受けたので、矢澤さんと拝聴しに行きました。

T川さんは某TV局に長くいらっしゃいました。メディア関係のお仕事柄、音楽の才能が必要とされただけではなく、多分、音楽関係のご家族の方に囲まれて育ったご出自に影響され

たと勝手に思っております。外見は筑紫哲也さん似の風貌で、指が長く繊細な感じの哲学者を思わせます。氏は数学にも長けており、右脳、左脳どちらもフル回転されているような多才な方です。思考方法も筑紫さんに似ていると思うのですが、ご本人はそう思われていないようです…。

ともかくも演奏が行われる表参道のコンサートサロンに行きました。表参道はあまりにも学生時代と異なり、洗練された文化に圧倒され、「嗚呼、田舎もんだな、うさおは…」ということを実感して





と澄まして仰られますが、意味は教えてもらえませんでした。

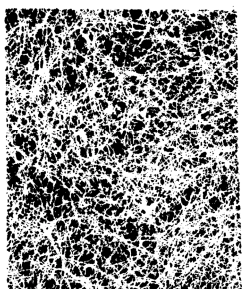
氏が演奏に用いたカワイピアノ Shigeru Kawaiは、日本有数の響くピアノで有名で、氏が気に入って借り受けたのだとか…。

同席の方が撮影してくれたものです。T川氏の演奏した曲は、すべてオリジナルの曲で、中には中学生時代に作られたものもあり、心象を曲で描く、天才ですね。



No.2

綾の鼓



まいりました。特にここが文化の主流の街だと痛感したのは、歩いている女性のファッションと珈琲代の高さかな。矢澤さんは既に来られておりました。

前出の写真は、氏の浦高時代の友人の方のブログから拝借したもの。

なんと中央に、矢澤さんとうさおが…。

実はよく見るとこの中にT川氏も写っていました。お客さんは、A、U、Tの三つに分かれた席が用意されており、うさおたちはA席に…、U席は浦高の友人でしようし、T席は氏がいたテレビ局の関係者でしょう。

ならばA席は？居合わせたこのテーブルの方々とその意味を考えました。そこで、おちょちょいのうさおは、「あっ、アザーのAだ！」と叫びましたが、周囲の方が窘めてくれます。「アザーはotherですから、“O”ですよ」

T川氏に聞くとA席は、「A席はエエ席だからですよ」



とにかく、久しぶりに音楽に浸ってきました。うさおは音楽ホールやスタジオの音響設計をしていましたが、そこから遠ざかってもう20年近くになります。当時の仲間は会社を辞めても、まだ現役で頑張っていますが…根性の無いうさおは楽な方に転身しちゃいました。

さて、T川氏のコンサートで2ページも前ふりを書きましたが、その延長でもう少し前ふりを。

うさおは若い頃に同人誌を作りたくて（挿絵を描きたかった）、「綾の鼓」というSF同人誌を作りました。早川書房のSFマガジンに同好の徒に呼びかけをしたら、すぐに30人くらいの方が集まってくれました。（うさおの知人には強引な誘い掛けで会員になって貰いました）

夢枕獏という有名な作家さんがいらっしゃいますが、この方も当時大学生で会員になってくれました。ご自身

のサイトにも、「綾の鼓」の記載があり、少し引用させていただきました。
ご興味のある方はこのサイトをご覧ください。

<http://www.btvn.ne.jp/~family78/book/yumemakura.html>

「高校2年か3年頃---既に『夢枕獏』のペンネームを使用していた。

・大学時代---東海大学文学部。小説をやっていくことを覚悟した。卒論のテーマは北杜夫の『幽霊』。

「綾の鼓(あやのつづみ)」、「SFあじていたあ同盟」というSFファンのグループ(SFファンダム)に入る。

「黎明(れいめい)」---「SFあじていたあ同盟」が会名を「ADO」とあらため、その「ADO」が発行していた同人誌。

「科学魔界」、「バム」などのファンジンを発行しているグループに籍を置くようになる。

「科学魔界」出身---巽孝之(SF評論家)

「綾の鼓」出身---志賀隆生(作家)、新戸雅章(作家)

「宇宙塵」に入る。」

ああ、そうです。志賀隆生、新戸雅章のお二方も、熱心な会員でした。なんだか著名な作家の方が3名も在籍していたかと思うと、へへへ……って感じで嬉しいです。

さて、それでは鶴見七福神について写真帳をお見せいたします。(ついにトマソン隊もご近所探検隊から、思い出写真帳まで格下げになっちゃいました。)

順番は熊野神社・正泉寺・鶴見神社・総持寺・東福寺・安養寺・松蔭寺に健ちゃんをご縁のある杉山神社と、新しくなった鶴見の駅ビルシャルの屋上庭園(建功寺の住職、枅野俊明氏の設計)をついでにお参りしてきました。



[illegible]

鶴見市場にある神社さんで、時折お祭りの時に、この前を通り賑やかだなあと考えた処。境内に駐車場があるので只かと思ったらお金を取られた。

祀られているのは、福祿寿様（道教の天南星道士）、木彫りの小さなもの。幼稚園の子供たちが参拝していたが、よく、玩具にされなかったね。



ここには、芭蕉の弟子の加舎白雄と大島蓼太の句碑がありました。

○鶴見神社



鶴見七福神の場所は、このチラシにあるように鶴見駅を中心とした処にあり、本来ならボランティアさんが付いて、故事来歴を説明してくれながら回るのが本筋だが、うさお、Cacco、健ちゃんの3人は体力と耐力の限界から、車で移動。港北七福神はお寺さんのご住職や大黒さんが自筆で奉加帳に書き入れてくれたが、鶴見七福神は既に印刷された奉加帳にお寺さん、神社さんに用意されている朱印を自分で押すもの、何か雰囲気が出ないなあという感じで七福神廻りに行きました。

○熊野神社



子供が生まれた時の初宮参りも、この神社
さんです。夏のお祭りは盛大に行われます。
子供の手を引いて出かけた記憶があります。

すぐ脇を京浜東北線と東海道線が走っており、喧噪のなかにある神社さんですが、由緒があり、社格が高いのだとか。

裏に回ると火山岩で出来たミニ富士山があり、浅間参りが出来るようになっています。
ここに祀られているのは、寿老人。



三島由紀夫が
建立した「清明」
の碑があり、何
やら由来があり
そうですが、何
故ここ鶴見神社
にあるのかは分
からなかった。
鶴見は文学に強
いなあ。

○正泉寺



このお寺さんは、健ちゃん一族の所縁のお寺さん。生麦ごん鉄（健ちゃん家）の寄進の書があった。生麦にあるお寺さんで、漁師町のど真ん中にある。漁師さんの海上安全を祈願していたのだとか。この辺りに駐車場が無く、うさおは車でお留守居番。

このお寺さんのご宗旨は真言宗智山派で、写真の中にも「南無遍照金剛」と書かれた经文が写っています。山号は南海山。

さて、ここでは恵比寿神が祭られています。関西では「えべつさん」、出雲の国の神様が祭られています。

小さくて見えないので、拡大すると宝船に乗って鯛を抱えています。一人で寂しいね。



うさおは車の近くで、ウロウロしていると「道念稲荷」の鳥居が見えました。参道もある立派な神社さんでした。

○東福寺



鶴見駅の西口を降りて、線路に沿って道路を横浜方面に向かって行くと、花月園に至る山道があるけれども、その中腹にこのお寺さんはある。山号は子生山、真言宗智山派で正泉寺さんと同じだ。

お正月だからか、山門には幔幕が張られていた。この山門には、仁王像が祭られています。阿吽の形相で睨んでいる処は圧巻です。

このお寺さんの七福神は、毘沙門天です。



毘沙門天はインドの神様で、ヒンドゥー教のクベーラ神です。ヴァイシュラヴァナが訛って、毘沙門天になりました。はて、福祿寿は道教の道士でしたが、寿老人も道教の道士で、一説には福祿寿の仮の姿とも言われており、南極老人と呼ばれています。恵比寿様は日本の神様で、毘沙門天がインドの神様、宝船ってすげえ国際的だなあって感じです。

○安養寺



と伝えられています。つまりは浄土宗のお寺さんに真言宗の寺佛は同列には祀れないということで、山門の外にあるのかも知れない。もし、弘法大師が作られたものなら、数億の価値があるかもしれない。

このお寺さんの弁財天は境内ではなく、山門の脇のお堂に祀られていました。山号は一到山、浄土宗のお寺さんです。この辨財天は、福壽辨財天と呼ばれ、「近江国竹生嶋天女と同木にて弘法大師御作」

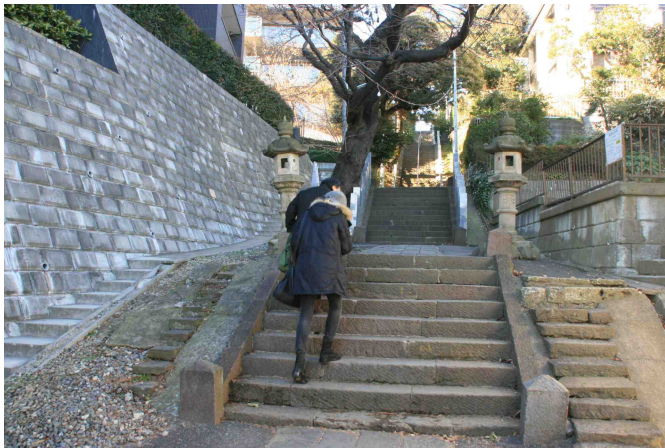




天が有名で、音楽を志す人がお参りしているそうです。

残念ながら、このお堂の中を目を凝らしてみても、辨財天のお姿はあまりよく見えなかった。須弥壇に仏画が掛けられていたが、何が描かれていたのかも分からなかった。

○杉山神社



してあります。後ろの石碑は富士山の山形に赤い紋で「一山」と書かれています。つまり、健ちゃんのお爺さんは、富士登山の町内の講の引率者だったんですね。この神社さんには、戦後五十年の記念碑の拝殿の天井に、戦没者の遺影が貼られており、数の多さに圧倒されます。

辨財天は毘沙門と同様、インドの生まれでヒンドゥー教のサラスヴァティー女神です。言語や知識、蓄財の神様です。お姿には、弓、矢、刀、矛、斧、長杵、鉄輪、絹索を持つ武力的なもの、琵琶を持った音楽的なものの二種類があります。後者は「江の島」の辨財



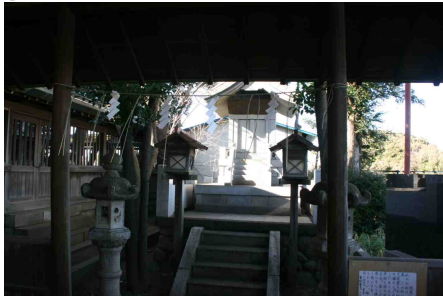
安養寺さんのすぐ近くに、このお社があります。この神社さんも健ちゃんの一族の「生麦ごん鉄」の所縁の地、お爺ちゃんが喜捨した石碑があるのだとか。七福神巡りの息抜きにお参りました。

そう言えば、鶴見神社も元の名前は杉山神社でした。杉山神社という社名には凄い由緒があるのかな。



そしてこれが、健ちゃんのお爺ちゃんの碑、「元講大先達 飯島久行桑山彰徳記念」と記





○松蔭寺

杉山神社は五十猛神（素戔鳴命）を祀っており、鶴見川流域にだけ存在する地域限定の、正体不明の神社さんで、続日本後紀には72社があったとか、マニアの中には、杉山神社巡りなるものが流行っており、全てを見て回るものらしい。また、杉山神社は狛犬の種類が多いことでも有名です。



の祠の中に入れてですね。

お堂を護るという元々の目的と言うことから、外に居るのが正しいんですけどね。このお寺さんから見えるのは、馬場町にある水道塔ですが、丁度、三つ池にある電波塔が重なって見えます。

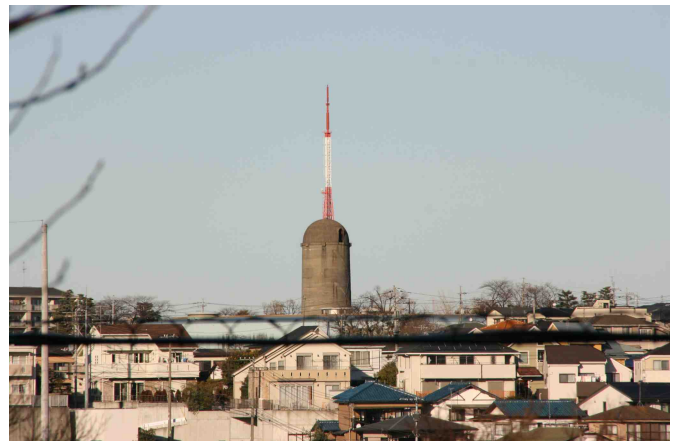
ここの先代のご住職は、叔母さんの患者さんだったと聞いています。叔母さんは歯医者をしていました。

このお寺さんは、臨済宗建長寺派で鎌倉時代に開祖したもの、山号は仙鶴山です。いかにも、鶴見らしい所で東寺尾に位置しますが、もともと寺尾という地名は、この松蔭寺さんを中心に、寺域のはずれという意味で付けられたものだ、と、ご住職が語っていたらしい。寺尾は東、西、北はあるが南はありません。何故でしょう。

七福神としては布袋様が祀られております。石造りでお庭に雨ざらしで置かれております。恐れ多いことでございます。布袋様は中国の禅宗のお坊さんで、実在した人物と聞いています。中華街のお祭りには、この布袋和尚(布袋尊)の被り物で街を練り歩いているのが、よく見かけられます。中国では身近で親しみにおある聖人なのでしょう。松蔭寺さんのご本尊は、釈迦如来だそうです。

本堂の脇にある小さなお堂(祠?)に、これまた雨曝しの仁王尊が立っています。可哀そうなことに、片腕が朽ちて無くなっています。

この像はもっと文化財として、保存されるべきなんじゃないかなあ。補修もかけて、こ



○総持寺



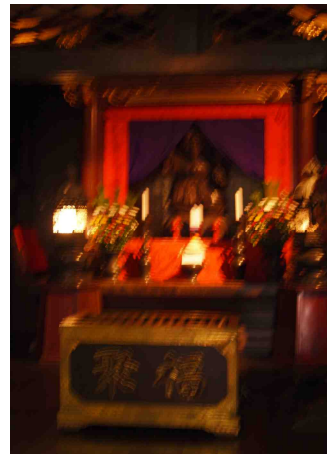
年の初めには何年も出かけたことのあるお寺さん、禅宗の曹洞宗の大本山であり、諸嶽山総持寺と言うのが正式なお名前。

大晦日の晩に来ると、この伽藍（香積台）の売店で甘酒を売っている。参道のところに香具師達の屋台があり、そこでも甘酒は売っているが、そこは喧騒の中。静かな環境で甘酒を啜りながら除夜の鐘を聴くのだ。

その総持寺で祀っているのが、大黒様だ。

大黒天とも称されますが、元はヒンドゥー教のシヴァ神の化身だそうで、シヴァ神？あのなんだか不気味な神様？破壊の神の？マハーカーラ神とも言われますが、一方、出雲の国の大国主命だとも。音読みするとダイコクって読めるからだそうだけど、一体、誰なんだ？

もともと大黒天は食物と財産の神です。



総持寺の大黒天は身の丈180cmほどの大きさを誇っています。関東一の大きさを誇っています。

玄関にある大黒様ではなく、この奥院にある大黒様が大きいのだ。こっそり写真

を撮ったが、残念だが失敗をしてピンボケである。ここに世にも恐ろしい顔をした大黒天が祀られている

比較的新しい民謡で、南部俵積歌と言うのをご存知でしょうか？合いの手が「コラッ」と言う、いつも怒られているような歌です。

ハアー、春の初めにこの家旦那様は、七福神のお供して(コラッ)、俵積みに参りた。ハアー、この家旦那様は俵積みが大好きで(コラッ)、お国は何処かとお聞きある。私の国は(ナア、コラッ)、出雲の国の大福人、日本中の渡りもの(コラッ)、俵積みの先生だあ・・・と唄われており、この縁起歌にも七福神は入っています。

○鶴見の駅ビルシャル



馬場町にある建功寺さんのご住職、枅野俊明氏が設計した屋上庭園を見たいと健ちゃんが提案してきました。リニューアルしたばかりの鶴見駅ビル「CIAL鶴見」に行ってみました。東口界限は、この「CIAL鶴見」と地区公会堂、ホテルになっており、猥雑な街が綺麗に様変わりしています。

鶴見を離れて15年程になります。東口は長いこと住んでいたところ、昼は官庁街、夜は風俗街のような街でしたが、やはりホームグ

ランドの落ち着ける街です。鶴見を離れる時に、うさおは転職します。別に何の意味もありませんが。

枅野俊明氏は以前にも書きましたが、日本庭園の造園作家で寺院や東急ホテル、海外のモニュメントなど、数多くの作品を手掛けています。「CIAL鶴見」には屋上庭園と、禅カフェ「坐月一葉」？があります。禅カ

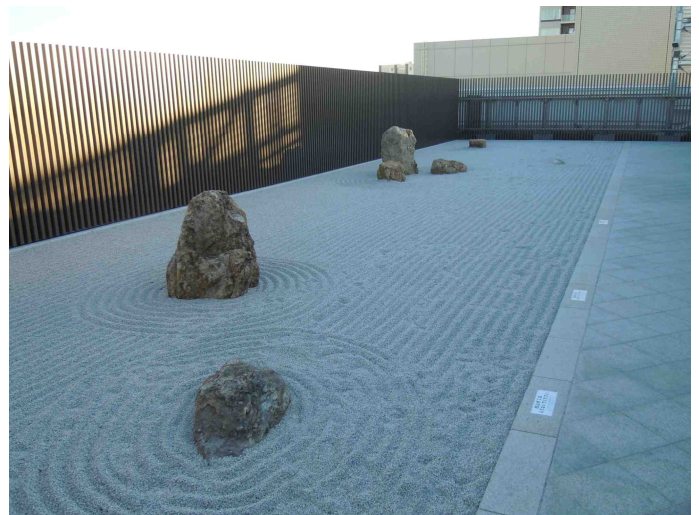


フェってなんだろう。定期的に法話と座禅の会が開かれているようだ。紅茶や珈琲はどうも合わないような感じがする。

屋上庭園のコンセプトは、「枯山水」。1月とあってちょっと寒かったです。が、鶴鴒が遊びに来ておりました。

○同人誌考

若いときに自分の作品を残したいときには、自分で出版物を作らないといけませんでした。漫画のように一点ものの場合には、コピーの発達



していなかった時代ですので、たった1冊の同人誌を仲間内で回覧しました。

「PESO」という名前で、どうやら「ペン」という同人誌名が、「ペソ」と読めるのでこの名前にしたのではと思っています。うさおはあまり書かせて貰えませんでした、ストーリーが作れなかったからね。俳句や小説は、ガリ版刷りで慣れてくると、鉄筆で絵を描くことも出来るようになります。叔父の作った俳句集もガリ刷りで絵も自分で書かれていました。